

12月5日開催 有識者会議における第2期案への意見と回答

昨年12月5日開催の有識者会議にて、お寄せいただいたご意見等につきまして、回答を作成しましたのでご報告します。

該当箇所	ご意見・ご提案等	回答
基本目標① 数値目標「生産年齢人口に占める就労者数の割合」	<ul style="list-style-type: none"> ・事業開始前の基準値（20.6%）は他自治体との比較では高いか、低いかな。 	<p>産業構造の比率により製造業に対する就労割合は変化しますが、県内では岡谷市の30.23%を筆頭に、当市は上位から5番目。県内19市の平均は16.72%。</p>
基本目標① 数値目標「認定農業者数」	<ul style="list-style-type: none"> ・認定農業者の確保を進める理由如何。 ・農業振興にあたっては、農業単独で進めるよりも企業と組んで付加価値を高めてはどうか。農業と企業のマッチングの部分の行政が担うことはできないか。 ・農業振興にあたり重点的に力を入れていく品目は設定しているか。 ・認定農業者のうち、法人はどの程度含まれるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・田園産業都市を掲げる市として、持続的で活力ある農村を維持し、荒廃農地を発生させないために、市の農業の大宗を担っている認定農業者の確保は必要との考えから推進しております。 ・商工部局との連携・調整の上、具体的な方針が確立した時点で総合戦略に位置付けたいと考えます。 ・新規就農者の取組品目としては、親元就農者では土地利用型作物、新規参入者では、りんご、夏秋いちご、施設野菜などの品目としています。なお、現在のところ品目ごとの目標数は設定しておりません。 ・H31年3月末認定農業者280経営体の内、法人数38経営体。
基本目標①	<ul style="list-style-type: none"> ・業種についてターゲットを絞るのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業種の限定は考えておりませんが、既存制度では、雇用

該当箇所	ご意見・ご提案等	回答
KPI「新規起業者数」		が伴わない創業も対象でしたが、新制度では雇用条件の付与を考えております。また、長野県では地域課題解決に伴うソーシャルビジネス事業の起業者を優先する施策を行っていますので、これらも参考に新たな制度設計を進めます。
基本目標① KPI「企業誘致数」	・雇用創出数もKPIとしてはどうか。	・進出企業の業種・企業規模等の推定、目標値化は困難であることから、雇用環境改善の数値として、誘致企業数を目標に決めました。
基本目標① KPI「新たな働き方としてのテレワーク事業者数」	・テレワークの取り組みは就労環境の改善につながっているか。	・テレワークは着手間もないこともあり、目標設定が難しい部分もありますが、まずは受注（仕事）を増やし、登録者数を増やす段階にあると考えているため、原案のとおり取り組みたいと考えています。 また、この取り組みについては、テレワークの趣旨を鑑み、当初予定していた基本目標「新たな雇用を生み出す」から「安心して出産し子育てできるまちをつくる」に変更し、取り組みたいと考えます。
基本目標②「移住定住の促進とともに、関係人口を拡大する」	・関係人口の拡大について、日本全体で東京一極集中が止まらないため、国は地方への移住施策から表現を変更したようにも思える。市として進めるべきか検討が必要。	・当市では、以前より「安曇野ファン」の創出を念頭に各種事業に取り組んでまいりました。また、移住施策の実施につきましても、自治体間での人の取り合いに手を挙げるという考え方ではなく、当市の利便性や環境を向上させることで、住みたいまちとして選ばれるよう取り組みを進めたいと考えます。
基本目標② KPI「移住支援による移	・移住だけでなく、特に若年層の転出を抑制する定住促進の取り組みが重要ではないか。	・定住促進につきましても、住まい、雇用、生活環境、子育て支援など多方面の取り組みが成果として繋がってくる

該当箇所	ご意見・ご提案等	回答
住者数」「コミュニティスクール」	コミュニティスクールは具体的にどのような趣旨で総合戦略に掲げ取り組むのか。	<p>ものと捉えておりますので、特定の施策によるものではなく、総合戦略全体の取り組みにより推進いたします。</p> <p>・コミュニティスクールの取り組みについては、子どもたちが地域の一員としての自覚と、自身の存在意義を強く育んでいくこと、そして成長した後も安曇野が地理的にも社会的にも「故郷」として、常に寄り添い、繋がりを感じられる存在であり続けられるようにしたいと考えています。</p>
基本目標② 具体的取組（事業）「海外販路の開拓」	・事業の進捗評価のための KPI がいないのでは ないか。	・希望をもって就農いただくための取り組みとして、海外にも販路を開拓しておくことで、KPI「新規就農数」につなげていきたいと考えます。
基本目標③	・数値目標・主要施策・KPI の整合がとれていないのではない か。	・政策体系については再考させていただき、第2期政策体系のように整理させていただきました。なお、数値目標とKPIにつきましても、原則として5か年変更せずに取り組みたい（事業は適宜見直します）と考えておりますので、この他、目指すべき指標などございましたら是非ご教示ください。
基本目標③ KPI「出産・子育てがしやすいまちと思う市民の割合」	・子育て、教育に関しては、特徴ある取り組みを進めるべき。信州自然型保育のように市独自の環境を生かすような組み立てはできないか。	<p>安曇野市では市独自で学校に指導員を配置しています。子どもたちにとって、障がいがあっても、特性が強くても、仲間として同じ学校に通うことが普通であるように、学校の体制を充実させていくことが必要と考えます。</p> <p>また、信州自然型保育を受けた子どもたちが、市内小学校に上がったときにこれを引き継いでいけるような取り組み等を検討してまいります。</p>

該当箇所	ご意見・ご提案等	回答
基本目標③ KPI「放課後児童クラブの6年生までの受入れ拡大」	<ul style="list-style-type: none"> ・学年だけでなく他の入所要件の緩和も含めて検討が必要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生までの拡大と要件緩和を比べた場合、6年生までの拡大がより早期実現の可能性が高く、従来どおり児童館も活用しながら、可能なところから進めていきたいと考えております。 ・要件緩和につきましても、6年生までの拡大の進捗にあわせ、地域性も考慮しながら進めていきたいと思っておりますが、相当の期間を要するものと見込まれます。
基本目標③ KPI「松本ハローワーク管内若年層就業率」	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革の観点も取り入れられないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テレワークをKPIとして設定します。また、このKPI「松本ハローワーク管内若年層就業率」については、より明確に進捗管理をしていくため「実践型業務研修による就業者数」に変更します。
基本目標③具体的取組 「若い世代、女性の経済的安定」	<ul style="list-style-type: none"> ・国の総合戦略では掲げているが、当市で特段の課題となっていないのであれば変更してもよいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「若い世代の就業支援、仕事と子育ての両立」に表現を変更します。
基本目標④ KPI「区への加入世帯数」、KPI「市民活動サポートセンター活動団体取材件数」	<ul style="list-style-type: none"> ・区の住民に協働の意義を知ってもらい、協働へのモチベーションが高まり共鳴するような仕掛けをしてみてもどうか。 ・協働ということであれば市民団体の活動やボランティアの活動が重要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・R1年度、まちづくり推進会議において、「区の意義や重要性の理解促進」について検討しています。今後まちづくり推進会議からの提言に基づき検討の上、具体的取り組みを設定します。 ・市民活動サポートセンター登録団体（区等及び市民活動団体）の交流機会を拡充し、区等と市民活動団体の連携を深め、地域課題の解決を図り安心して暮らし続けることのできるまちを目指します。

該当箇所	ご意見・ご提案等	回答
		<p>連携を深め協働を促進していくうえでは、多様な主体が登録されている（市内で活動している）ことが望ましいことから、KPI を登録団体数に変更し達成を目指します。</p>
<p>基本目標④ KPI「立地適正化計画の推進による「居住誘導区域内の新築件数割合」</p>	<p>・立地適正化の考え方として、旧町村の中心や駅だけでなく、将来的な市の中心部の想定は持ったほうがよいのではないかと考えています。国道沿いの商店街の活性化を進めるべき。</p>	<p>・市内の駅は、大系線に9駅、篠ノ井線に2駅であり、公共交通である駅を中心としなければ利便性の確保が難しいと考えています。このような状況を踏まえ、一つの中心部を定めて、集中的に投資をしていくより、散居集落により形成される本市の特徴を生かして複数の中心部を定める都市づくりを進める方向としています（医療、買い物等が居住地に近い、コンパクトなまちづくり）。</p> <p>買い物などの利便性の向上を考えますと、郊外の商業施設だけでなく、魅力ある国道沿いの商店街を造る事は大切と考えます。併せて公共交通の充実や交通弱者の近くで商売をする「移動購買車」のようなビジネスモデルの推進も今後検討すべき課題と捉えています。</p>
<p>基本目標④ 「スポーツ活動の充実」</p>	<p>・地域特有の課題として、冬場のスポーツ推進に力を入れてはどうか。</p>	<p>・戦略への位置づけはございませんが、冬場のスポーツの取り組みとしては、初心者の方のニーズを考慮しながら、有酸素運動やストレッチ系を取り入れたスポーツ教室を実施しています。地域においては、合併前から長年続いている穂高地域の「小学生スキー教室」、堀金地域の「元旦マラソン大会」や「堀金綱引選手権大会」、明科地域の「ワンバウンドふらばーるバレーボール大会」等地域の特色を生かしたスポーツイベントを開催しています。</p>